

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

●実施状況

平成 30 年 5 月 10 日に成魚調査を実施した。調査当日は長潮で、干潮が 7 時 52 分、満潮が 13 時 2 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 1.9～2.9m であり、全地点で赤潮状態は確認されなかった。また、底層においては、貧酸素状態は確認されなかった(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報では、St.22 周辺、袖ヶ浦市沖等一部の地域で貧酸素水塊の発生が確認されている)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:50-10:33		11:18-12:20		12:22-12:53		13:08-13:38	
水深(m)	25.2		12.6		15.1		7.8	
天候	曇		雨		雨		曇	
気温(℃)	14.7		13.4		12.2		12.4	
風向/ 風速(m/sec)	N/6.0		NNW/3.7		SE/3.6		SE/3.2	
波浪(m)	0.5		0.4		0.2		0.2	
透明度(m)	2.9		1.9		2.7		2.3	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	17.5	15.4	17.2	16.7	17.3	16.4	17.6	17.8
塩分(ー)	26.9	34.3	18.1	33.0	27.7	33.6	27.8	30.4
DO(mg/L)	8.1	6.2	7.2	5.5	8.5	5.1	8.0	7.2
DO飽和度(%)	99.5	77.1	83.0	68.5	105.0	64.2	99.4	91.1
pH(ー)	8.2	8.1	7.9	8.1	8.3	8.0	8.3	8.3
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考							調査地点周辺では、ミズクラゲが多くみられた。	

観測層：上層(0m)・下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

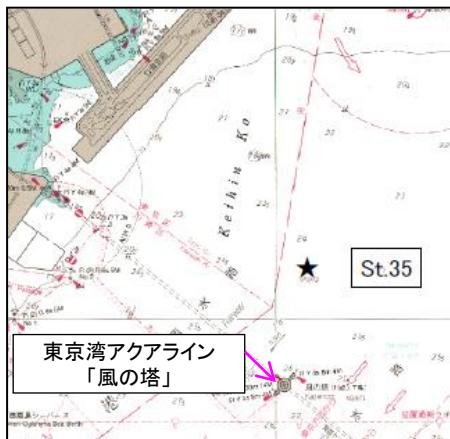
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタテヌメリ(c) スジハゼ(r)	ハタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) タチウオ(r)	ハタテヌメリ(c) メイタガレイ(r)	ハタテヌメリ(c) マハゼ(r)
魚類以外 (目立った種)	ケブカエンコウガニ(m) シャコ(c) ホンビノスガイ(r)	ケブカエンコウガニ(c) スナヒトデ(c) マルバガニ(+)	ケブカエンコウガニ(m) スナヒトデ(+) ジンドウイカ(r)	ヒメガザミ(+) トリガイ(+) ホンビノスガイ(+)
備考	上記の他、タイラギ、トリガイ、アカガイ等が採取された	上記の他、ホンビノスガイ、アカガイ等が採取された。	上記の他、エビジャコ属、サルエビ、マルバガニ等が採取された。	上記の他、マコガレイ、イッカクモガニ、ヒメガザミ等が採取された。

注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

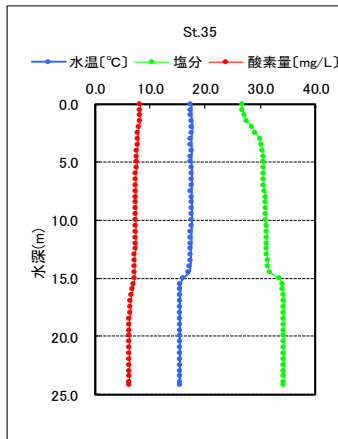
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

貧酸素状態は確認されなかった。

採取試料



主な出現種



甲幅 3cm 程。水深 10～100m の砂泥底に生息する。東京湾では 2003 年頃から増加。イッカクモガニとならんで、マアナゴなどの胃内容物として見つかり、これら魚類の重要な餌となっている。



体長 15cm 程になる。東京湾では水深 15～30m にすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕えて食べる。江戸前寿司の代表的なネタのひとつで、名産地の横浜柴漁港では、禁漁期設定などの資源回復に取り組んでいる。



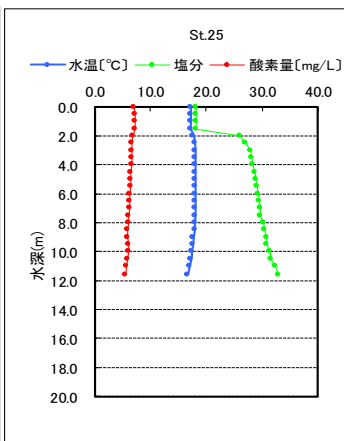
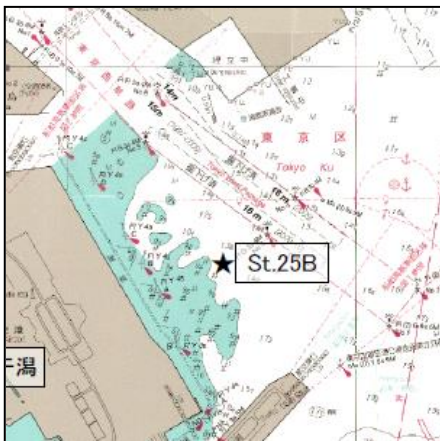
殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖ったほうを下にして海底に突き刺さったようにして生息している。内湾域の環境悪化や漁獲圧により、各地で資源量が減少している。東京湾の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、このサイズまでしか成長できない。生体が 1 個体採取された。

調査地点：St.25

調査地点位置

水質状況

地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった。



主な出現種



テンジクダイ



タチウオ



スナヒトデ

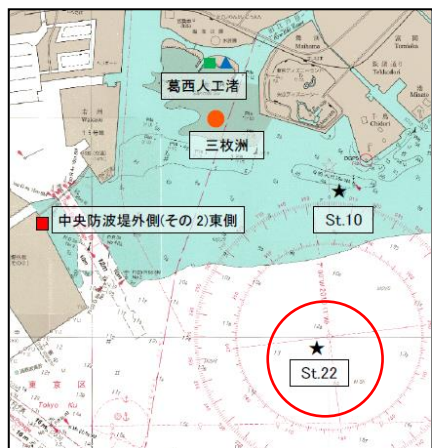
東京湾全域から出現記録があり、特に湾奥に多い。砂泥底に生息し、甲殻類等を食べる。繁殖期は7～10月である。底曳網で大量に漁獲され、練り製品の材料等に利用されている。

東京湾全域から出現記録があるが、湾奥では少ない。生きている状態では、金属光沢を放つ。調査で採取された幼魚は浮遊性の甲殻類を食べるが、成体になると魚類を中心に食べる。大型のものほど美味で、刺身、塩焼き等で賞味される。

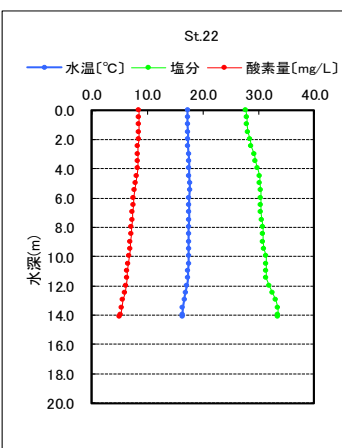
内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデの仲間である。移動速度は速く、砂中の貝類等を捕食する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



主な出現種



ハタタテヌメリ

全長 14cm 程になる。春や秋には、湾奥部に分布するが、夏には、湾央のやや深い場所に分布する。本調査の主要種の1つである。東京湾ではメゴチと呼ばれ、てんぷら等で賞味される。



メイタガレイ

体長 20cm 程になる。水深 20～120m の砂泥底に生息し、多毛類等を食す。名前の由来は、眼の間に棘があり、触ると痛い（目痛鰈）とされる（諸説あり）。西日本で珍重される。成魚調査では、初めて採取された。



ジンドウイカ

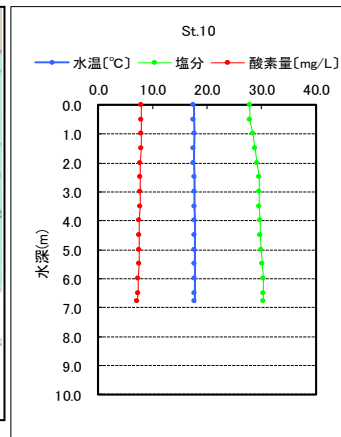
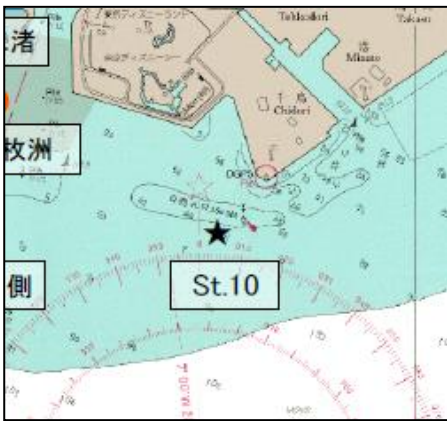
外套長(胴長)12cm 程の小型のイカで、東京湾の湾奥でもみられる。東京湾では『ヒイカ』と呼ばれ、食用になっている。産卵期は春～夏で、砂地に細長い卵の入った袋(卵嚢)を複数個産む。成魚調査では、初めて採取された。

調査地点：St.10

調査地点位置

水質状況

地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった。



主な出現種



東京湾全域から出現記録がある。体は横に伸びた菱形で、体盤幅は 1.2m 程になる。砂泥底に生息する。尾部の毒棘はアカエイに比べ小さい。つばくろは、ツバメ(燕)の意味である。採取された個体はほぼ最大サイズ。



全長 45cm 程になるが、今回採捕された個体は 10cm 以下であった。水深 100m 以浅の砂泥底に生息する。東京湾での小型底引網漁業の対象としてもっとも重要な魚種の1つ。



内湾の泥底に生息する。湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生によりほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 60 mm に成長し漁獲される。千葉県では、重要な漁業対象種となっている。